



ユネスコ教育勧告

わたしたちがつくる  
平和・人権・持続可能な開発

日本のエドゥケーターのための  
14のエッセンスと42の問いかけ

## はしがき

「読み書きそろばん」を習わずして人は生きられない — この考えに異を唱える人はそう多くはないでしょう。では「読み書きそろばん以外に何を学ぶべきなのか」という問いに対してどのように答えたらよいのでしょうか。

歴史をふり振り返りみれば、古代ギリシャの詩や音楽から現代の情報テクノロジーに至るまで古今東西で時代ごとに優先されてきた内容はまちまちであることが分かります。そこで、問いをやや焦点化して「現代社会に生きる私たちのためだけでなく、未来の人々のためにも私たちが身につけるべき教養とは何か」としたら、どうでしょう。

上記の問いに答えるのも決して容易ではないはずですが、応答の手がかりとなる国際文書が2023年11月に生まれました。第42回ユネスコ総会で加盟国194ヵ国が議論を重ねて到達した共通見解とも言える「平和と人権、国際理解、協力、基本的自由、グローバル・シチズンシップ、持続可能な開発のための教育に関する勧告」です（ここでは「ユネスコ教育勧告」と略記）。

気づけば私たちは戦争が止まなくなった時代に生きています。そんな時に、現代社会で優先されるべき教育のテーマは、なによりも平和や人権等であるという満場一致の決議に全ての加盟国が漕ぎ着けたことの歴史的な意義はこのほか重要であると言えます。

この勧告の前身は半世紀ほど前に採択された「1974年国際教育勧告」（略称）でした。そこでは人権や国際理解の重要性が標榜されたにも関わらず、残念ながら実質的な効力をもたらさなかったという見方がなされています。たしかに、人権の大切さ

を唱えた旧勧告に各国は賛同したものの、子どもの権利をはじめ、一人ひとりの人権が守られているとは言い難い半世紀を私たちは生きてきたのではないのでしょうか。

こうした歴史を繰り返してはならないと考え、新たな勧告がより広く普及するためのカード型教材を私たちは作ることにしました。ユネスコ活動費補助金（令和6年度）事業の一環として聖心女子大学及び日本国際理解教育学会の有志が話し合いを重ねて作成した学びのツールです。

新たな勧告には、その神髄とも言える「14の主導原則」が書かれています。この学習ツールでは、勧告全体の理解への扉となるように、各主導原則から1つずつ重要な「キーワード」を選びました（次頁図参照）。これらは各国が議論を重ねて勧告に盛り込まれた重要な概念ですので、原語が伝わるようにカタカナで表記をしています。また「キーワード」のもとに勧告の説明を平易な表現にした「エッセンス（意識）」が記されています。さらに〈自分ごと〉にするための「3つの問い」を設けました。使い方の詳細についてはこの後に説明していますので、参考にしてみてください。

ユネスコ教育勧告では、これらの原則を私たちが「尊重・促進・保護」すべきであり、勧告と照らし合わせて加盟国の法律や政策、計画を継続的に見直すことが求められています。この学びのツールが新たな人類の約束事を理解する第一歩となり、日本の教育システムをより良い方向へといざない、ひいては勧告が唱える平和で人権が尊重された持続可能な社会の実現の一助となることを願ってやみません。

日本国際理解教育学会ユネスコ教育勧告推進事業委員一同  
同事業委員会代表 / 聖心女子大学教授  
永田佳之



図 14 の主導原則（キーワード）

\* 本教材はデジタル版（下記の QR コード）でも公開されています。印刷をするなどして、ご利用ください。



<https://kyosei.u-sacred-heart.ac.jp/unesco2023/>

# カード型教材の使い方

## I. カードで何をやるのでしょうか？

いまの学校や地域に教育の可能性があるとしたら、それはどのような可能性でしょう。また課題があるとしたら、その課題の解決には何をいかに変えていけばよいのでしょうか…。こうした問いについて、このカード型教材にある「キーワード」、「エッセンス（意識）」、3つの「問い」を出発点として対話ダイアログをしながら考えてみましょう。

## II. 対話ダイアログをする前に

- カードの表面の上に「キーワード」、その下に「エッセンス（意識）」、下部に3つの「問い」が記されています。裏には勧告の原文と翻訳があり、関連資料のQRコードが掲載されているものもあります。
- カードは、グループに一組、あるいは、一人に一組、どちらでも構いません。
- 4人～6人くらいのグループを作ります。グループ数が多い場合は全体のコーディネーター役がいた方が運営はスムーズになります。一つの問いを話すのに5分～10分はかかりますので、コーディネーター役は全体の時間を考慮して、扱うカードの枚数や問いの数を決めてください。
- 初対面であれば、最初にグループで簡単な自己紹介をすることをお勧めします。今の気分（ドキドキ？ワクワク？）を伝えてもよいです。
- グループ内にファシリテーター（進行）役を決めて話し合いをすすめるとスムーズです。
- 対話ダイアログを楽しみましょう。他人を傷つけない限り、どんな意見・感想を言ってもよいです。問いには一つの正解がある訳ではありません。「分からなくなる」ことも大事です。問いに対しての、また他の人の意見への疑問も出してみましょう。自分の意見を押しつけないようにしましょう。対話ダイアログのあとに自分たちの考えがその前と変わっていくのが対話ダイアログです。
- クリティカル・シンキング（ホンモノを見抜く考え方）によって、対話を深めていくことが大事です。クリティカル・シンキングについては以下のIVや参考文献（土屋、豊田）を参照してください。

### Ⅲ. カードを使った対話をしてみよう

① 4人～6人くらいで輪になって座りましょう。まず、14のカード全部をみてみましょう。

② 気になった「キーワード」や「エッセンス」があるカードを何枚か選びます。

※コーディネーターが時間内で扱えるカードの枚数を決めます。グループ同士でカードが重ならないようにしたい場合や時間の制約がある場合には、コーディネーターがカードを指定するやり方もあります。

③ 対話をするカードの順番を決めて、グループ内の1人が「キーワード」と「エッセンス」をゆっくり声に出して読みます。

※具体的な「問い」から対話を始めたい場合には、③を省略するやり方もあります。

④ 選んだカードに書かれている3つの「問い」から1つを選び、読み上げます。

※身近な問い、一般的な問い、行動に関する問いが順に並んでいます。最初の問いから順に始めることをお勧めします。

⑤ 「問い」に関して、思いつく答えや新たな疑問や意見を出してみましよう。（1問につき、5～10分をめど）

⑥ 別の「問い」についても同様におこないます。

※より多くのカードを体験してみたい場合は、1枚のカードの3つの問いから1つ～2つの問いのみを選ぶやり方もあります。

⑦ ひととおり終えて時間があれば、「キーワード」や「エッセンス」の意義や課題について自由に話しましょう。

⑧ 別のカードについても上記の③～⑦を繰り返します。

⑨ 最後にグループで出た意見を他のグループの人たちに発表しましょう。その後、全体で対話を続けることもできます。

※ 上記を参考に、人数、時間、参加メンバーに合わせた方法でご活用ください。

※ 上記の順とは逆に、より具体的な「問い」から始めて、「キーワード」や「エッセンス」について話し合うというやり方もあります。

#### IV. 深い対話ダイアログするためのクリティカル・シンキング(ホンモノを見抜く考え方)

※ お互いに以下のような問いをかけあいながら対話ダイアログをしてみましょう。

- ① それは、どういう意味だろう？（意味を問う）
- ② なぜそう考えるのかな？（理由を問う）
- ③ そのことの根本にある考えて？ それって当たり前かな？（前提を問う）
- ④ そこから考えられることって？（推論を問う）
- ⑤ 本当にそうなんだろうか？ そうじゃない場合は？（真偽を問う）
- ⑥ 例えばどんなとき？ そう考えることの根拠は？（根拠を問う）
- ⑦ そうじゃない場合もあるんじゃないかな？（反例を問う）

#### V. 参考文献・資料

##### ● 参考文献

- 安齋勇樹、塩瀬隆之『問いのデザイナー創造的対話のファシリテーター』学芸出版社
- 大田堯・山本昌知『ひとなる一ちがう・かかわる・かわる』藤原書店
- 鈴木大裕『崩壊する日本の公教育』集英社
- 土屋陽介『僕らの世界を作りかえる哲学の授業』青春出版社
- 豊田光世『p4cの授業デザイナー共に考える探求と対話の時間のつくり方』明治図書出版

##### ● 2023年ユネスコ教育勧告の邦訳

- 「ユネスコ教育勧告改訂記念イベント」準備委員会報告書作成チーム(2024)  
『1974年ユネスコ教育勧告改定記念イベント報告書』日本国際理解教育学会



<https://x.gd/NPifF>

\* 上記の報告書に所収されている暫定訳は2025年1月現在、修正が加えられており、  
『国際理解教育』Vol. 31（2025年6月刊行、明石書店）に掲載される予定です。

\* この教材は「令和6年度ユネスコ活動費補助金」による「『ユネスコ教育勧告』普及のための教材開発及び教員研修モデルの構築」事業の一環として作られました。作成には聖心女子大学グローバル共生研究所所員及び協力団体である日本国際理解教育学会のユネスコ教育勧告推進事業委員のほか、多くの会員有志のご協力をいただきました。ユネスコスクール認定校の聖心女子学院及び不二聖心女子学院、フリースペースたまりば及び川崎市子ども夢パーク、一般社団法人サステイナブル教育開発機構（educore）、UNESCO 本部でご協力をいただいた方々にもこの場を借りてお礼を申し上げます。

ユネスコ教育勧告推進事業委員  
阿部裕子、風巻浩、木間明子、神田和可子、永田佳之  
野島大輔、藤井三和子、平澤香織、矢野淳一、山西優二、吉田敦彦

イラスト・デザイン 池田系